

## 平成23年度 中間評価表

鳥取県立鳥取工業高等学校

|                   |  |          |   |
|-------------------|--|----------|---|
| 中長期目標<br>(学校ビジョン) | 技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。 | 今年度の重点目標 | 1. 確かな学力の育成<br>2. 豊かな人間性の育成<br>3. キャリア教育の充実と生徒の進路実現<br>4. 地域や産業界とのパートナーシップの確立 |
|-------------------|--|----------|---|

| 年度当初 |                      |                  | 評価結果 (10)月  |  |   |   |   |
|------|----------------------|------------------|---|--|---|---|---|
| 評価項目 | 評価の具体項目              | 目標(年度末の目指す姿)     | 目標達成のための方策  | 経過・達成状況  | 評価  | 改善方策  |   |
| 1    | 確かな学力の育成             | 授業改善と学力の定着       | 学習内容の精選と教材・指導法の工夫により、わかりやすい授業に努め、生徒の基本的な学習習慣を確立させ、学力の定着を図る。<br>積極的な授業公開により、教科指導の研究と授業改善を行う。   | 授業評価アンケートや基礎力診断テスト、校外模試の分析をとおして教材や指導法の工夫を図り、生徒の意欲喚起につなげる。<br>「5S」、「あさひ」の取り組みにより学習環境を整え、基本的な学習習慣の確立を図る。<br>各科・各教科で年1回以上公開授業を実施し、事後の反省会等を持つ。また、日頃から他の教員の授業を積極的に見学し授業改善に努める。  | 授業評価アンケートを実施し、生徒の学習状況や理解度を把握するとともに授業改善に活かしている。<br>基礎力診断テストを新たに実施し分析を行っているが、生徒の意欲喚起までにはつなげられていない。<br>「5S」、「あさひ」の取り組みが定着しつつあり、学習環境も改善されている。<br>各教科から公開授業計画が出され、予定通り実施されている。   | B   | 授業評価アンケートや基礎力診断テスト等の分析に基づき、生徒の理解度や意欲を高める工夫を行う。<br>「5S」、「あさひ」の取り組みについてより一層の徹底を図る。<br>各種研修会への参加や公開授業の参観をとおして授業力向上に向けての研鑽に努める。                           |
|      |                      | 主体的な学習態度と実践力の育成  | 進路目標を早期に確立し、主体的な学習態度を育む。<br>各定期考査ごとに目標を設定し、自宅学習の習慣化を図る。<br>読書への興味・関心を喚起し、読書が習慣化するよう、引き続き「朝読書」の充実を推進する。  | 生徒・保護者との面談をとおして、適性等を活かした進路目標の早期確立を図る。<br>小テストや課題の実施、資格・検定と関連付けた学習指導等により、学習習慣の確立に努める。<br>自宅学習時間調査を分析し、学習の習慣化につなげる。目標は、理数工学科では2時間、工業学科では1時間以上とする。<br>「朝読書」推薦図書を紹介や図書館での身近なテーマ展示を実施し、読書の習慣化を図る。                                     | 補習や各種模試、進路行事を実施する中で、学年が上がるに従い、いままですら進路意識が高まっている。<br>夏期休業中に大山で実施したサマーサイエンスセミナー(勉強合宿)では、理数工学科生徒中心に参加し、目標とする進路に向け意欲的に取り組んだ。<br>自宅学習調査結果では、1・3年生では学習時間が増加傾向にあり目標をほぼ達成したが、2年生では減少し目標に達していない。<br>朝読書も定着し、図書館の貸出冊数も1年生を中心に大幅に増加している。   | B   | 補習や各種模試、進路行事の取り組みを引き続き進めるとともに、生徒・保護者との面談をより綿密に実施し、進路目標の早期確立を図る。<br>小テストや課題を課すなどして自宅学習を促すとともに、自ら学習できる力を養い学習習慣の確立に努める。<br>朝読書の習慣化と自主的な読書への取り組みをさらにすすめる。 |
| 2    | 豊かな人間性の育成            | 互いを尊重する態度と社会性の涵養 | ハイパー-Q-U調査やいじめアンケートの分析結果を、学級や個々の生徒の理解に活用する。<br>性教育、人権教育LHRを中心としながら人権意識を高める。<br>人権問題や異文化理解に関する具体的な学習内容を取り扱うとともに、教職員研修に努める。<br>教職員校外研修の情報提供を充実させる。  | 生徒間におこる問題行動は減ってきているが、生徒同士お互いを大切に人権意識にはまだ課題がある。<br>校内での研修は予定通り実施することができた。<br>校外人権研修の取り組みが進んでいない。  | C   | 生徒個人との面談をとおして、生徒理解にさらに努める。<br>生徒の現状把握に留まらず、人権の視点にたった教育実践に努める。<br>校外研修の情報提供を早めにこまめに行う。 |   |
|      |                      | 健全な心身と社会貢献精神の育成  | 「5S」、「あさひ」の取り組みを徹底し、自立に向けた「人間力」を育成する。<br>ボランティア活動等の参加を勧め、さらに他者への思いやりの心を育成する。<br>環境問題等、社会の変化に対応した教育の推進を図る。<br>部活動をはじめ生徒会活動に積極的に取り組ませ、中国大会・全国大会への出場者数の増加をめざす。   | SHR、各授業ごとに「あいさつ・作法」、「整理・整頓」等を徹底する。<br>テクノボランティアへの理解を深め、情報提供に努めて参加人数を増やす。<br>環境標語を募集、掲示し、生徒に啓発を行う。<br>部顧問と連携し、生徒の活動状況を把握し励ます。<br>生徒が部活動へ主体的に取り組めるように、教職員の支援体制を整える。  | 「5S」、「あさひ」の取り組みは、定着しつつある。<br>運動部だけでなく、文化部の活動も活発になった。<br>特に1年生の部活動参加率が高く、全体的に部活動は活発になっている。<br>「桜ヶ丘グリーンゾーン活動」には、総勢170名の生徒、保護者、教職員の参加があり、熱心に活動した。<br>「テクノボランティア活動」には、例年の3倍近い参加希望があり、人数制限を行うほど意識の高まりを感じた。<br>計画的に、環境標語を各所に掲示している。   | B   | 引き続き「5S」、「あさひ」に取り組み、その意義や効果を十分理解させる。<br>教室の清掃徹底に、引き続き取り組んでいく。<br>環境標語の掲示場所をさらに工夫していく。   |
| 3    | キャリア教育の充実と生徒の進路実現    | 専門的な知識・技術の習得     | 進路意識を高め、国家資格・検定等の取得者数の増加をめざす。<br>ものを作る喜びをとおして、興味関心を持たせ、学ぶ喜びや他人を思いやる心などの真摯な態度を養う。<br>専門学科と連携し、企業との事業の充実にも努め、生徒の知識や技術の習得を図る。  | 各科・各教科が推奨する資格・検定取得に向けて勉強会・補習を実施し、積極的に取り組ませる。<br>高校生ものづくりコンテスト・工業系競技大会への参加をいっそう奨励する。<br>「企業見学会」、「インターンシップ」、「鳥工版デュアルシステム」等を実施し、それらとおして、生徒のスキルアップに取り組む。   | 資格取得のハンドブックを作成し、第一・二種電気工事士、技能検定(電子機器組立て3級)、公害防止管理者、危険物取扱者(乙種第4類)、漢検、英検、計算技術検定3級、初級CAD検定、等の勉強会や補習に積極的に取り組ませる。<br>「高校生ものづくりコンテスト」中国大会の測量部門、電気工事部門に出場し、電気工事部門3位入賞、測量部門5位であった。<br>「企業見学会」では、県東部の企業、研究所、建設現場、大学、専門学校等、合計23箇所を実施した。<br>「鳥工版デュアルシステム」は、1学期に3年生の「課題研究」の授業で実施し、各科(制御・情報科、電気科)で企業4社に、生徒12名が参加した。<br>「インターンシップ」に際しては全体集会および科別・企業別に事前指導を実施した。また、事後研修会を実施し、現状把握と多くの提言をいただき成果が上がっている。 | B   | 資格・検定の取得に向けた補習・勉強会を継続して行う。また、授業に資格・検定試験の問題を取り込んだり、個別指導を行い、受験・合格者数を増やすなど工夫する。<br>デュアルシステムの企業選択が困難な科もあり、今後検討する。   |
|      |                      | 職業意識の育成と進路指導の徹底  | 「企業見学会」や「インターンシップ」などをとおして、職業意識や勤労観を養うとともに、自らの生き方をじっくり考察させ進路選択や学習意欲を喚起させる。<br>引き続き、就職内定率100%を実現する。<br>生徒一人ひとりの思いや夢を大切に、自己実現につなげる進路指導を行う。   | 進路指導部と学科が連携して各種行事・LHR等を行い、面接指導・志望企業の相談やアドバイスを進め、進路意識が高まるよう指導する。<br>進路説明会・模試・諸検査および情報提供等を行い、生徒の思いや願いをしっかりと聞きながら、個々の進路に応じた適切な指導を行う。<br>生徒の進路目標実現のために必要な「学力」および「人間力」の育成を図る。   | 「企業見学会」、「インターンシップ」、LHR、各科面接指導等により生徒の進路指導が個別・具体的に生まれ、生徒の進路意識が向上した。<br>進路補習等も積極的に取り組んだが、会議等の時間の調整で問題を残している。   | B   | 「企業見学会」、「インターンシップ」の事前指導を充実させ、生徒の進路選択の一助となるように指導する。また、個別面接等で、個々に応じた進路実現ができるように支援する。<br>会議の精選等、補習時間を確保する体制を整える。   |
| 4    | 地域や産業界等とのパートナーシップの確立 | 地域や産業界等との連携強化    | 産業界が求める人材像や企業人としての在り方を把握し、職業観・勤労観の啓発等を企業と連携して指導し、地域の担い手となる人材を育成する。<br>地域の一員としての学校の在るべき姿を検討し、教育内容の改善につなげる。   | 「インターンシップ」等の事前指導を実施するとともに、終了後に企業との反省会を開催することにより、現状把握や今後の行事の在り方等について協議し、情報を共有する。<br>「社会人講師」の導入、「先輩を囲む会」、「鳥工産業教育懇話会」、「ものづくり講演会」等で連携を強化する。<br>津ノ井地区懇談会を開催し、地域との連携を強化する。   | 「インターンシップ」では、県東部の企業65社に協力いただき工業学科2年生144名が実施し、今年度初めて企業との反省会を行った。<br>「鳥工産業教育懇話会」を実施し、提言を基に教育内容の向上を図った。<br>「社会人講師」の取り組みでは、プロの技を伝授いただき、生徒の力量アップや教職員の指導力向上につながった。  | B   | それぞれの事業について、やりっぱなしにならないように、反省会や発表会を実施して情報の共有に努める。<br>学校外部からいただいた意見に真摯に耳を傾け、今後の取り組みに反映させる。   |
|      |                      | 開かれた学校づくりの推進     | HPを積極的に活用して、中学生・地域・保護者対象の情報発信に努める。<br>地域、小学校、中学校等に科学や英語授業を実施し、理科の楽しさや国際理解の推進に努め、理数工学科への理解を深めてもらう。<br>中学生、保護者を対象に、ものづくりの楽しさや完成したときの達成感等を体験する機会を設け、工業学科の取り組みについて理解を深めてもらう。<br>地域と連携した貢献活動に積極的に参加する。<br>保護者参加型の行事をとおして、保護者との連携を密にし、生徒の指導・支援を充実させる。 | 学校行事、進路、部活動、資格取得、テクノボランティア活動等の最新情報を適宜更新する。<br>理科や英語などの出前授業を行う。<br>鳥工課題研究発表会等を実施する。<br>「桜ヶ丘グリーンゾーン」活動、「津ノ井地区文化祭」等へ参加する。<br>公共施設、独居老人宅等での照明器具の掃除・点検、簡単な修理、窓ふき等のテクノボランティア活動を実施する。<br>科別PTAなどPTA行事をとおして積極的に学校の教育活動を公開し、保護者との連携を密にする。 | 資格取得状況など一部の情報を除き、頻りにHPの情報更新が行われた。<br>英語科ではエキスパート教員による出前授業を実施し、生徒の学力や興味関心を高め、教職員の授業力向上にも役立った。<br>「桜ヶ丘グリーンゾーン活動」には、総勢170名の生徒、保護者、教職員の参加があり、熱心に活動した。(再掲)<br>「テクノボランティア活動」には、例年の3倍近い参加希望があり、人数制限を行うほど意識の高まりを感じた。(再掲)<br>「科別PTA」には多くの保護者に出席いただき、本校の教育内容の理解や連携を深める良い機会となった。   | B   | HPの更新と内容充実を更に進めるなどして、最新の学校情報をより速くより多く発信する。<br>PTAとの連携を密にするなど、HPのみならずメール配信を活用し情報提供を図る。<br>今後実施を予定している事業について、教職員が一丸となって取り組む。                            |

注) 5S:整理・整頓・清掃・清潔・躰 あさひ:挨拶・作法・人の話を聞く

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [20%程度]